

平成23年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	総合交通分析システムに関する調査	担当部局庁	総合政策局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成14年度～	担当課室	参事官(総合交通体系)	参事官 秋村成一郎			
会計区分	一般会計	施策名	40 総合的な国土形成を推進する				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)		関係する計画、 通知等	国土形成計画(全国計画)(H20年7月4日閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	効果的で効率的な交通体系の整備を支援するため、様々な総合的な交通体系の分析ツールを作成、提供する。国みずから使うだけに留まらず、都道府県などの地方公共団体に対しても提供し、有効に活用されるものである。本調査では、国内の任意の複数地点間について、複数の交通手段と複数の条件(時間最短等)の組み合わせによる経路検索を行う総合交通分析システム(NITAS)の整備を行う。						
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	交通体系整備を推進するための総合的な交通体系分析のツールであるNITASが内部に持つ道路、鉄道、航空ネットワーク、統計データ等について時点更新を行うとともに、分析ツールとして、国、地方公共団体等のユーザーに提供する。 また、現在利用しているNITASは、当初の開発から長年が経過し、システムの根本的な改良が必要となっている。このため後継システムへの更新を行い、交通体系の分析における様々なニーズに対応する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	-	14	25	50	28
		補正予算	-	0	0	0	
		繰越し等	-	0	0	0	
		計	-	14	25	50	28
	執行額	-	13	21			
執行率(%)	-	95.8%	82.2%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値
	本施策は、総合的な交通体系の分析ツールの作成、提供とその効果的な活用を図るものであり、成果目標及び成果実績を明示的に示すことは困難な性質のものである。	成果実績					
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	本施策は、総合的な交通体系の分析ツールの作成、提供とその効果的な活用を図るものであり、活動指標及び活動実績を定めて実施するというものではない。	活動実績 (当初見込み)				() ()	-
単位当たり コスト	1.8百万円/項目	算出根拠 X:実績額(21百万円)、Y:検討項目数(12項目)					
平成 23 ・ 24 年度 予算 内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	職員旅費	0.4百万円	0.4百万円	平成23年度で次期システムへの主な移行作業を完了することによる減額			
	国土形成計画推進調査費	50百万円	28百万円				
計	50百万円	28百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	-
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	-
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	-
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・検討業務の執行に際しては、企画競争を行い、適切な委託先、内容で業務の委託を実施している。選定過程において、第三者機関である有識者委員会において審議頂いている。また、委託先と適宜業務の進捗・内容について打合せを行い、使途についても適切に把握している。</p> <p>【前回の指摘を踏まえた執行上の改善点】</p> <p>・事業内容について、これまでの行ってきた事業の有効活用、最大限の効果発現を図るため、次期システムへの移行を進めることとしている。</p> <p>・発注にあたっては、より競争性を高めるため、調達情報について前広に事前公示を行い周知期間を十分に置く、配置予定者の要件など、応募要件の緩和、透明性の確保、競争性の向上に努めている。今後とも発注の競争性向上による効果的な政策効果発現を図っていくこととしている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
廃止 ② ⑧	事業終了のため事業廃止とするが、今後システム更新の効果、活用状況等の分析を行うべき。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
システムが広く有効に活用されるよう、ユーザーの意見や潜在的なニーズを収集・分析し、事例集を作成するとともに、本システムを総合交通体系の観点から防災対策を検討するツールとして提供すべく検討を行う。			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

国土交通省
21百万円

職員旅費
0百万円

総合交通分析システムに関する調査の企画立案



【一般競争・企画競争】

A. 民間企業(2社)
21百万円

・総合交通分析システム(NITAS)のデータ更新業務
・総合交通の分析に資するシステムの開発に向けた検討業務

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

A.株式会社ライテック			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務費	現在運用している総合交通分析システム(NITAS)の内容を高度化し、一般に広く公開することが可能な次期総合交通分析システムの整備を行うための仕様の検討を行う	13			
計		13	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社ライテック	総合交通の分析に資するシステムの開発に向けた検討業務	13	随意契約	99.9%
2	株式会社東日本技術研究	総合交通分析システム(NITAS)のデータ更新業務	8	4	94.6%
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					